



第5回小中一貫教育小規模校全国サミット in 十日町 まつのやま学園 ※P 8で説明

## フナの解剖

学校教育課長補佐 須藤 宣男

小学校の理科の授業で、フナの解剖の時間があった。クラスの皆は、当然フナでやるものと思っていたが、理科の先生はバケツにコイを持って理科室に現れた。それも校庭の丸池にいたコイである。

ワーワーキャーキャーいいながら無事、フナ改めコイの解剖は終わった。コイはこの後どうなるのかと疑問に思い、しばらくして用も無いのに教務室に行ってみた。

すると案の定、コイは輪切りにされてストーブの上の鍋の中にいた。それも味噌とともに。いわゆる「鯉こく」であった。そうすると、理科の授業は、解剖ではなく調理ではなかったのか。すると単元としては、家庭科ではないのか？

まあ、命を無駄にせずに魚の体の仕組みを学んだあと、人間の体の一部になるという、コイの全てを活用した素晴らしい授業だったのかもしれない。しかし、「鯉こく」は私たち児童の口には入らなかった。教務室で先生たちに食されたのだ。

少し疑問がある。先生達は学校のコイを食べたのだから業務上横領になるのか。いや、理科の教材として使用した後、本来は廃棄するものを食べただけだからいいのか。でも、フナでも良かったのに「鯉こく」を食べたいためにわざとコイを使ったのか。そうすると問題か。

家に帰って刑法の本で調べてみよう。

でも、学校はいつも楽しかった。

# 小中一貫教育

## ■小中一貫教育小規模校全国サミット in 十日町の開催 まつのやま学園 11月16日(土)

台風19号の影響により延期となりましたが、遠くは宮崎県・佐賀県からもお越しいただき、県内外から約180名の参加を得て無事開催されました。サミットは、小中一貫教育小規模校全国連絡協議会（以下、協議会）が主催し、市教育委員会が後援して行われたもので、今回が第5回目で東日本では初開催です。

学園では、延期により公開内容を大きく変更するなどの苦労はありましたが、学校と保護者、地域の関係者が一体となり、おもてなしの心で運営に当たり好評を得ました。



### 【参加者のお迎え】

サミット参加者の出迎えと受付は、中学部生徒と保護者、運営協力者が担いました。生徒は、お越しになった参加者に笑顔であいさつし、控室まで案内しました。

※以下、枠内は参加者の感想

- ・多くの心温まるおもてなし、ありがとうございました。朝の部屋までの案内もうれしかったです。
- ・子どもたちの迎える気持ちが伝わりうれしく思いました。また、学校と地域の強いつながりのもとでの学校運営、まつのやまで、まつのやまだからできる素晴らしい学園だと思います。

### 【公開活動・公開授業】

公開活動は、当初は文化祭に全校縦割り班で発表する内容の練習場面の公開予定でしたが、当日は完成した発表の披露となりました。各班がオリジナルのシナリオで劇やお笑いを披露しました。1から9年生までの発達段階の違う子どもたちが一緒に関わる難しさがある中で、中学部生徒がリーダーとなり作り上げ、工夫している様子や班の絆の深まりが伝わってきました。活動は、いじめ防止に関わる絆づくりの取組の一環として行ったものです。

- ・1～9年生が温かい人間関係でつながり、表現している姿を見る、感じることができました。
- ・子どもの自主性が生かされていて、温かい気持ちになりました。学園の「空気」が肌で感じられた時間でした。

公開授業は、学園の子どもたちが生き生きと取り組むありのままの姿を見てもらうために、全学年で行われました。その中でも、併設型小中一貫校の特色を生かした5年生「理科」の中学校教諭の乗り入れ授業、5年生外国語と7年生英語の合同授業、9年生のまつのやまタイム（総合）の総括につながる授業に特色が現れていました。



- ・E+タイムを中心に参観しました。7年生が5年生にアドバイスしている姿に活動の意義を感じました。
- ・少人数ながら仲間と意見を交わしながら思考を広げ深めていく姿が印象的でした。
- ・児童生徒が集団・グループでの学びをしっかりとしていました。9年間の系統的な学びのねらい、授業方法、学習評価をもう少し知りたかったです。



### 【アトラクション・全体会Ⅰ】

全校児童生徒による嵐の「ふるさと」「松之山町民歌」の心温まる合唱の後、協議会会長 京都大原学園 石飛聡学園長のあいさつ、関口芳史市長の祝辞、その後、植木幸広教頭と金城良一研究主任から学園の実践研究報告がありました。

- ・合唱は本当に素晴らしかったです。このハーモニー、これぞ小中一貫教育小規模校の魅力・メリットです。
- ・中学生が自然と全体をリードする雰囲気を感じられました。子どもたち一人ひとりから「自信」と「誇り」が伝わってきました。
- ・自己有用感の高まり、3年間の取組と成果について勉強になりました。小中一貫校での9年間の教育システムからたくさんのヒントをいただきました。
- ・小中の文化の違いを乗り越え、よい形でOne Teamになっている点が素晴らしいと感じました。
- ・全体としての取組が居場所づくりや学力向上につながっていると感じました。卒業後の高1ギャップや入学後の小1ギャップについても聞かせていただきました。

### 【分科会・全体会Ⅱ】

分科会では、「9年間の学びを支える教育システム」「チーム学校の具現化と機能強化」「地域と共につくる学習活動の推進」のテーマで、提案発表の後、小グループに分かれて活発な意見交換が行われました。

全体会Ⅱでは、上越教育大学教職大学院 教授 松井千鶴子様の講評、小中一貫教育小規模校全国サミット共同宣言、次期開催校（滋賀県長浜市立余呉小中学校）挨拶があり、最後にまつのやま学園 久保田智恵美学園長の学園経営への熱い思いと参会者へのお礼の挨拶があり閉会しました。



- ・いろいろな立場の人と本音で話ができ、自分の中で悩んでいたものも多くを解決できた。質問もいろいろできた時間設定でありがたかった。
- ・まつのやま地域が学校を支え、子どもたちの学びの場の提供に尽力されている熱い思いを知ることができ、刺激をもらうことができた。地域で頑張りたい。
- ・同じ悩みを抱える学校が多く、その中でも解決できそうな方向が見えたこともありがたかったです。

## ■全国サミット開催の成果と課題

まつのやま学園は、小規模校としてのメリットを生かし「小中一貫校の使命」「松之山地区唯一の学校としての使命」を基に、これまで取り組んできました。今回のサミットをとおり、今後の市の小中一貫教育を進める上で、次のような成果と課題があると感じました。

### 【成果】

- ・小中学校の教職員の共同性を発揮した教育活動（乗り入れ授業、E+タイム、縦割り班活動、つなぎつながる生徒指導など）
- ・9年間の学びの連続性を目指した教育課程の実践（E+タイム、まつのやまタイムなど）
- ・地域と共にある学校づくり（学校運営協議会、CS委員と教職員合同会議など）
- ・教育活動を通しての児童生徒の自己有用感の高まり（ハートウォーミング集会、縦割り班活動など）
- ・多忙化解消に向けた取組（夏休みの課題や通知表所見の見直しなど）

### 【課題】

- ・まつのやま学園の9年間一貫した教育課程の実践の成果と課題の集約・発信と評価
- ・併設型小中一貫校の成果を分離型小中一貫校にどのように生かすか
- ・コミュニティ・スクールを各中学校区において小中一貫教育の取組を進める上でどのように位置付けるか

本サミットでは、県内外の方との交流をとおり貴重な意見交流ができました。今後、上記のような成果と課題を踏まえ、市の小中一貫教育の取組をどう進めるか考えていかなければならないと感じました。

# 教育相談班より

## ■ <十日町市のいじめの状況について>

### 1 はじめに

いじめは、いじめを受けた児童生徒の尊厳及び平等性を損なう重大な人権侵害であるとともに、児童生徒の生命や心身及び人格の形成に重大な影響を及ぼす決して許されない行為です。学校では「学校いじめ防止基本方針」を策定し、学校の取組や達成状況等を評価し改善を加えながら、いじめ防止の取組、いじめ対応の徹底等を真剣に進めていますが、残念ながらいじめに関わる問題が後を絶ちません。学校は、いじめ問題に対し実効性のある取組を展開していくために、家庭、地域、市教育委員会等の関係機関と連携して、いじめ防止対策を確実に進める必要があります。

### 2 いじめの認知件数について

平成28年度から平成30年度末までのいじめの認知件数を年度別で見ると、年々増加しています。さらに、令和元年度9月までの認知件数は、同時期の数値を上回っています。この年々いじめの認知件数が増える原因には、学校が積極的ないじめの認知に努めた結果の現れと捉えられます。しかし、反対に今年度に入って「いじめの認知件数0」の学校が小学校で4校、中学校で1校あるのも注目です。新潟県いじめ防止基本方針では、「いじめの認知件数0の学校では、学校だより等で保護者・地域に周知し、いじめの見落としがないかの点検義務の必要性」が示されています。

「いじめは誰にでも、どの学校でも起こりうるもの」という認識をもち、「いじめの定義の正しい理解による積極的な認知」や「いじめのサインを見逃さない教職員の鋭敏な感覚によるいじめの認知」に努めてください。また、保護者・地域の皆さんからも気になることがあれば、ぜひ学校に情報を入れてください。いじめの発見のきっかけのトップは、保護者の皆さんからの情報です。

### 3 いじめの発見のきっかけ

いじめの発見のきっかけについて比較してみると、小学校、中学校とも、保護者からの訴えが多く、小学校では、本人や他児童からの訴え、担任による発見が続いています。中学校では、保護者からの訴えに次いで、本人の訴え、アンケートやデイリーライフ等への記述からといった学校の取組、担任の発見が続きます。いじめは、大人が見ていない時間、場所で発生していることが多いことから、校内では学校体制で多くの目で見守り、早期発見・即時対応していく必要があります。また、児童生徒の少しの変化でも常に気に掛け、情報を共有することも大切です。

### 4 いじめの態様(どんな行為か) 一番多い順に ①、②、③…

区 分	小学校		中学校	
	H30	R1	H30	R1
冷やかしやからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる。	①	①	①	①
仲間はずれ、集団により無視をされる。	③	②	③	②
軽くぶつかられる、遊ぶふりをして叩かれる、蹴られる。	⑤	③	⑦	④
ひどくぶつかられたり、叩かれたり、蹴られたりする。	④	⑥	④	⑥

金品をたかられる。			⑧	
金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられる。	⑤	⑤	④	
嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされる。	②	③	②	③
パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷や嫌なことをされる。	⑦		④	④
その他				

- 小中学校とも言葉による冷やかしゃからかい、悪口が一番多く、ついで仲間はずし、嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされる等の嫌がらせが多い傾向にあります。
- ズボンおろし等の行為(小学校2件、中学校3件)があり、軽はずみの行為から命の危険につながる重大な事故の恐れがあることを繰り返し指導していく必要があります。
- 携帯電話やネット関係によるものが小学校でも発生しており、小学校時点からの情報モラル教育を一層充実させる必要があります。家庭における子どものスマホやSNSとのかかわり方が大切だと思われまます。

## 5 いじめの現在の状況（令和元年度）

現在、学校からは、「いじめが解消している」または「解消に向けて継続支援中」の報告があり、必要に応じて市教育委員会も解消に向け協力している状態です。

平成 29 年に「いじめ防止等のための基本的な方針」を3年ぶりに見直し、新潟県・新潟県教育委員会も、それを受ける形で、平成 30 年 2 月、「いじめ防止基本方針」の改定を行いました。その中で、「いじめが解消している」状態について、以下の二つの要件を示しました。

### ①いじめに係る行為が止んでいること

いじめを受けた児童生徒に対する心理的又は物理的な影響を与える行為(インターネットを通じて行われるものも含む)が止んでいる状態が相当の期間継続していること。相当の期間とは、少なくとも3か月以上を目安とする。学校いじめ対策組織において、さらに長期の期間が必要であると判断した場合は、より長期の期間を設定するものとする。

### ②いじめを受けた児童生徒が心身の苦痛を感じていないこと

いじめを受けた児童生徒がいじめの行為により、心身の苦痛を感じていないことを本人及び保護者に面談等で確認し、認められること。

これらの要件が満たされている場合であっても、必要に応じ、他の事情も勘案して判断するものとする。いじめが「解消している」状態とは、あくまで、ひとつの段階に過ぎず、「解消している」状態に至った場合でも、いじめが再発する可能性が十分にあり得ることを踏まえ、各教職員は、当該いじめのいじめを受けた児童生徒及びいじめを行った児童生徒については、日常的に注意深く観察しなければならない。

以上のことを踏まえ、各学校は、いじめが解決に至ったと認められても、その後も注意深く関係する児童生徒に対する観察や面談等を継続していく必要があります。また、周りの大人すべてが、子どもの小さな変化に気付き、気になることは情報共有し、協力していくことも必要です。

社会全体でいじめをなくしましょう！



## 学習指導班より

### 英語ボランティアガイド養成講座

#### まとめの「School Visit(学校訪問)」

十日町の豊かな自然や文化などの郷土の良さを知り、積極的に英語で発信し交流する「ボランティアガイド養成講座」が、11月の「School Visit(学校訪問)」のプレゼンテーションでまとめを行いました。

今年度は、十日町高校・南中学校・川西中学校の3校でプレゼンテーションを行いました。ボランティアガイドに参加した中学生1名と高校生4名が、8月から取り組んできた「オリジナル十日町英文ガイド」を訪問校で発表しました。

川西中学校では、発表を聞いた生徒から積極的に質問や意見の声上がり、発表した生徒も満足感を味わった様子でした。



#### ～プロに学ぶ～授業力向上研修②

去る10月15日(火)。筑波大学附属中学校より、関谷文宏主幹教諭を講師に招き、今年度2回目の「～プロに学ぶ～授業力向上研修」を開催しました。

今回は、南中学校の2年1組:社会科で「憲法をつくろう ～伊藤博文はどのような国家像を描いていたか～」というテーマで示範授業を

していただきました。「伊藤博文の描いた国家像を人体図で表す」という大胆なアプローチでしたが、生徒は自分で予想を立て、「頭の部分に来るのは『天皇』はあり得ないのではないか。」「『人民』は、身体を支える足の部分ではないか。」など、柔軟な発想で学習に取り組みました。後半の講演では、「森を見ながら木を見て、木を学びながら森を学ぶ生徒の育成」のテーマでお話いただきました。



中学校の社会科の示範授業&講演ということで、参加者はやや少なめでしたが、提案内容やお話は、新学習指導要領のキーワードである「主体的・対話的で深い学び」に正対するものでした。来年度も本研修は開催する予定ですが、校種や学年・教科に関係なく、「主体的・対話的で深い学び」を直に目にする場として、参加を前向きに検討していただけるとありがたいです。

#### 【アンケートより】

★社会科授業と自己有用感をつなげるところが面白かったです。他の班の意見を見に行く場面で、行きにくそうな生徒も友達や教員に誘われていく、交流できることも自己有用感(認められている)を高めていると思いました。

★中学校の社会科の授業を参観する機会はあまりないので、興味深く見せていただきました。演題「森を見ながら木を見て～」については、本当に大切な見方だと思います。教師にとってもそうだし、子どもの学び方としてもこのように考えられるようにしていきたいものです。自分は算数を研究教科としているので、算数でもできないか考えてみたいと思いました。授業内容はなかなか高度だったので、どうなるかハラハラしましたが、生徒は予想以上によく考えていました。

## ■ 学力向上計画訪問より

11月は、中学校区ごとの「学力向上計画訪問」ラッシュです。各中学校区でいろいろな教科で公開授業をしていただいています。サポート訪問対象の2年目の先生が授業者をされる学校もありますが、「うーん、なかなかやるなあ。指導力が高まってきているぞ。」と思わせてくださる授業が多く、嬉しく思います。

公開教科で最も多いのは、算数・数学です。大津政好 嘱託指導主事とともに、事前に送っていただいた指導案に目を通し、参会者の皆さんにどんなことをお話しようか考えます。

算数・数学の授業で、少し気になっていることがあります。それは、「課題解決そのものがねらいになっている」授業です。例えば、4・5年の図形の面積の学習。長方形や正方形の複合図形(L字型。階段型。チューブ型。)や三角形、四角形、台形などの面積を求める学習です。よくあるパターンは、「多様な求め方を考え、友達と意見交流する」というパターンです。ここで大事なのは、「多様な求め方があることに気付く」ことがねらいではないということです。

算数・数学の学習では、既習事項の活用が重要です。つまり、「この問題を解決するために、今までに学習したことが使えないかを考える」ということです。図形の面積の学習では、求積公式を一つ一つ図形ごとに覚えるのではなく、「**底辺×高さ**」が**すべてのもとになっていることに気付く**ことが重要です。例えば三角形の面積を求める学習では、「三角形の面積を計算で求める活動(数学的活動)を通して、底辺と高さを決めれば、長方形や平行四辺形の面積の半分として求められることに気付く」ことがねらいとなります。

また、児童生徒の発想や反応が、教師の予想と異なることもよくあります。先日、3年生の「分数」の学習では、 $1/5 + 2/5$  の計算場面で興味深い姿が見られました。実は、事前検討会では「多くの子が  $3/5$  と答え、 $3/10$  という誤答は少ないだろう。」と予想していたとのこと。ところが実際は、半分以上の児童が  $3/10$  と考えたのです。



それどころか、授業者が計算式の右に「=」を書いたときです。ある男児が「先生、なんでそこに=を書くの?」と質問しました。「だって、分数だから…。」と先生。「ああ、もったいない。最高の反応なのに。」と思っていると、先生は続けて「なんて書きたかったの?」と問いました。すると、「3」と男児。すばらしいやりとりです。なぜ「3」なのか、分かりますか? 男児はきっと、「 $1/5$  が『3』つ」と言いたかったのに違いありません。多くの児童が  $3/10$  と答えたのは、一線を画す考えです。大人と子どもの発想は違うのだということを、改めて実感できた場面でした。

また、こうした素直な発想が出るのは、日頃の指導によるところが大きいはずですが、「こう投げかけたら、子どもはどんな反応をするだろう?」と、多くの先生方が授業に際して考えることと思います。しかし中には、「子どもたちが主体的に学習しているように見えて、実は『教師が用意しておいたゴール』に誘導着陸させられているだけ」という授業もあるのではないのでしょうか。教師の思い描いていた姿と異なる姿が現れたときこそが、教師の発問や指示、場面設定、教材・教具、環境整備などを見つめ直すチャンス! です。そして、それが教師の指導力向上につながり、児童生徒の学力向上へとつながります。ぜひ、いろいろなチャレンジをしてみてください。

## 学校教育課・教育センター事業のお知らせ ～12・1月～

日程	内容【会場】	備考
12月3日(火) 14:30～16:30	いじめ防止対策研修会② 「いじめ対応の校内体制づくり」 【川西庁舎第一研修室】	講師:中越教育事務所 指導主事 結城 義則 様 対象:校長
12月25日(水) 14:30～16:30	特別支援教育研修講座⑤ 【千手中央コミュニティーセンター】	講師:ふれあいの丘支援学校 校長 小網 輝夫 様
12月25日(水) 14:30～16:30	教育支援員研修会 【千手中央コミュニティーセンター】	講師:ふれあいの丘支援学校 校長 小網 輝夫 様
1月22日(水) 14:30～16:30	特別支援教育研修講座⑥ 【川西庁舎】	講師:前市教委嘱託指導主事 堀口生雄 様
12月中	令和元年度小中一貫教育取組評価アンケート実施 ① 児童生徒アンケート ② 教職員・保護者アンケート	提出〆切:12月27日(金) 提出〆切:1月7日(火)

### 【表紙写真の説明】

第5回小中一貫教育小規模校全国サミット in 十日町のまつのやま学園の様子です。左上は、全校縦割り班活動の様子です。班ごとに1～9年生のみんなで考えたシナリオを基に発表している場面です。左下は、5年生外国語と7年生英語の合同授業です。松之山の地域の良さを参加者に英語で紹介し、質問を受けているところです。右の写真は、アトラクションの全校合唱です。開催が一月延期となり、子どもたちのモチベーションが保てるか心配されましたが、児童生徒は多くの参加者を前にこれまでの取組を踏まえ、明るく元気に活動していました。1年生から9年生までのつながりの良さや一生懸命さにまつのやま学園の子どもたちのすばらしさを感じました。